

# 株式会社ツムラ

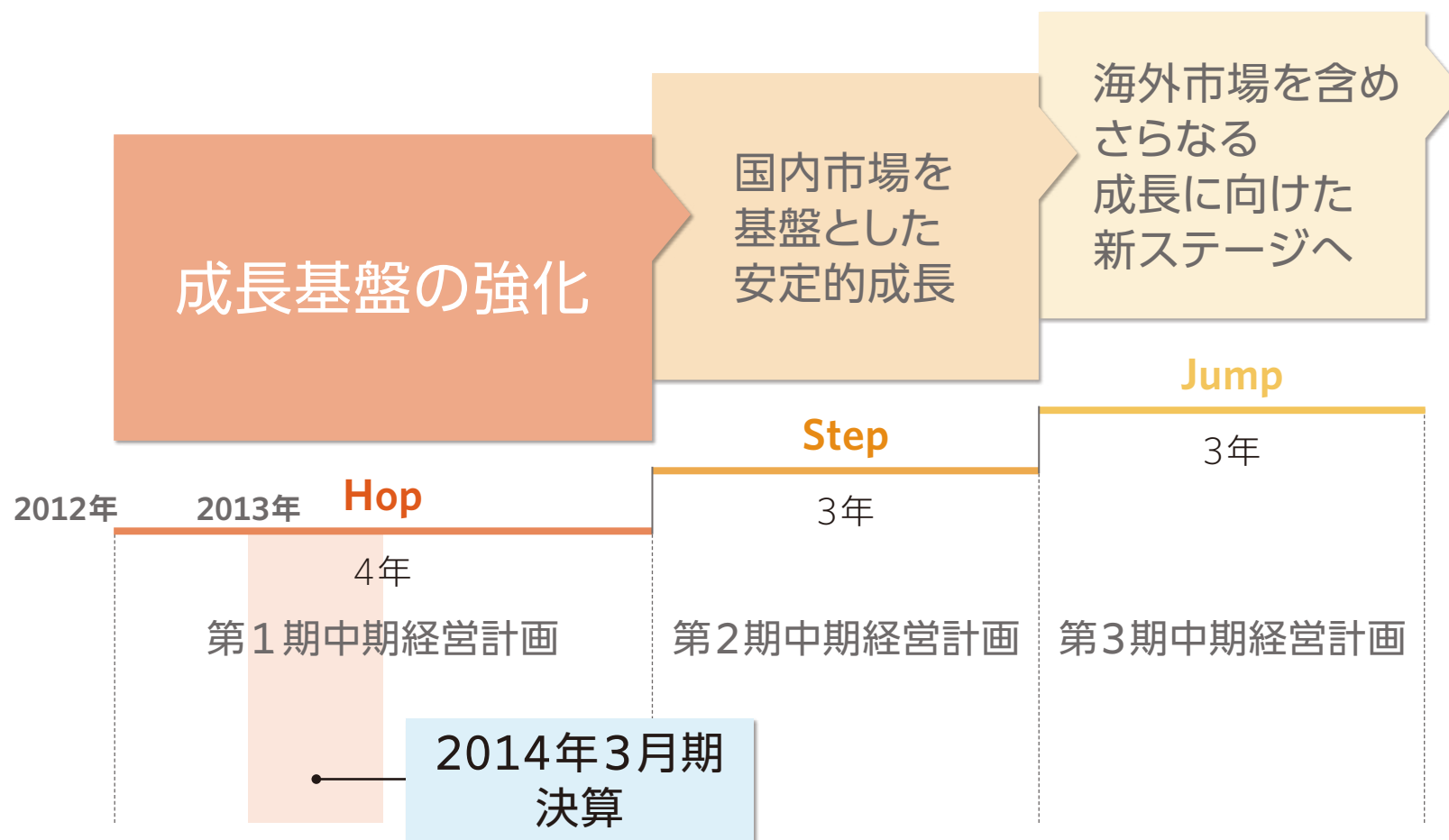
## 2014年3月期 決算の概要

2014年5月13日(火)

代表取締役社長  
**加藤 照和**

# 2014年3月期決算の位置づけ

## 長期ビジョン実現への第1期中期経営計画



### 長期経営 ビジョン

“KAMPO”で  
人々の健康に寄与する  
価値創造企業を  
目指して

“漢方”  
のツムラ

“人”  
のツムラ

“グローバル・ニッチ”  
のTSUMURA

### 第1期中期経営計画 3つの戦略課題

1. 漢方市場の拡大
2. 収益力の強化
3. 財務・資本政策

# 戦略課題

## 1 漢方市場の拡大 ～日本国内における医療用漢方製剤市場の拡大等～

- 国内のどの医療機関・診療科においても、患者様が必要に応じて“漢方”を取り入れた治療を受けられる医療現場の実現に貢献する
- 米国におけるTU-100 (大建中湯) の開発

## 2 収益力の強化 ～新生産技術の導入等による「コスト構造改革」の実現～

- 漢方製剤の新生産技術導入等により「コスト構造改革」を実現する
- 国内外における自社管理圃場方式での生薬栽培地の拡大により、品質・量・価格のすべての面で原料生薬の安定確保を実現する

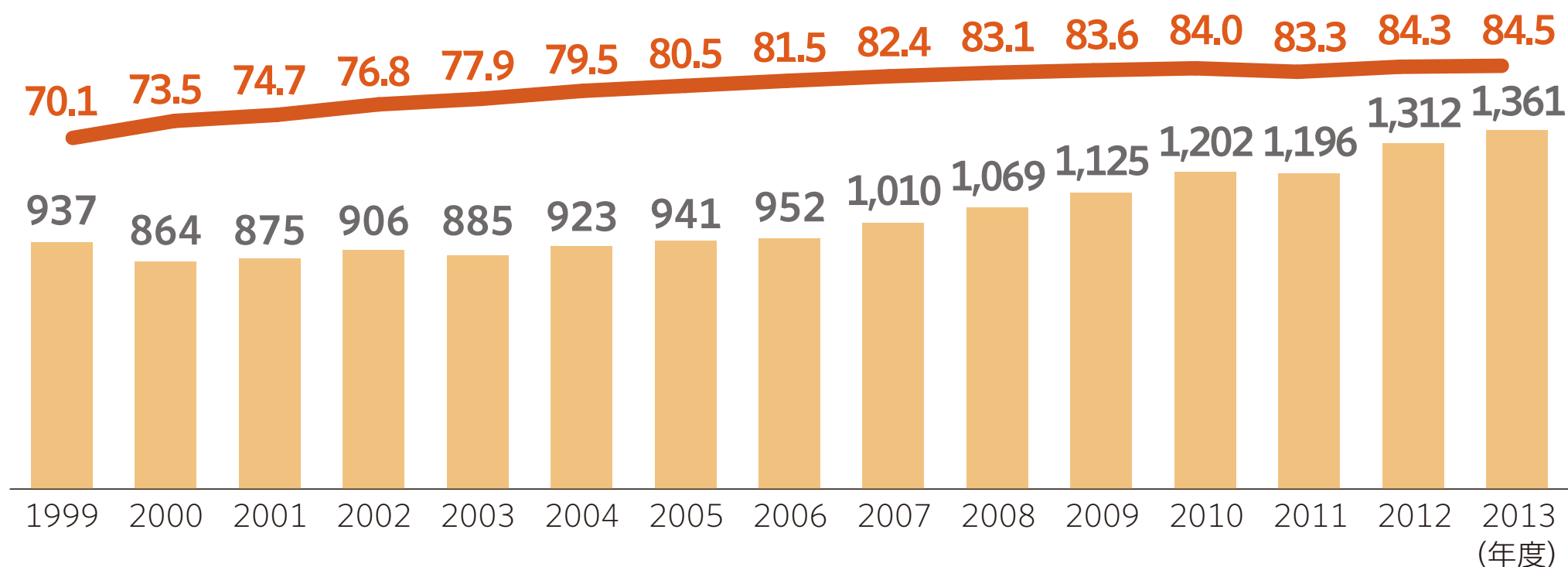
## 3 財務・資本政策 ～財務・資本政策の遂行による企業価値の拡大～

生産性向上に資する積極的な設備投資に加え、非事業資産である投資有価証券等の一部売却や売掛債権流動化等により、資産の効率化を図る


# 医療用漢方製剤の市場動向

2013年度の当社を含めた医療用漢方製剤全体の市場は、  
薬価ベースで1,361億円

市場全体 (億円)  
ツムラシェア (%)



Copyright 2014 IMSヘルス「JPM2000年3月MAT～2014年3月MAT」をもとに作成  
無断転載禁止



2014年3月期決算

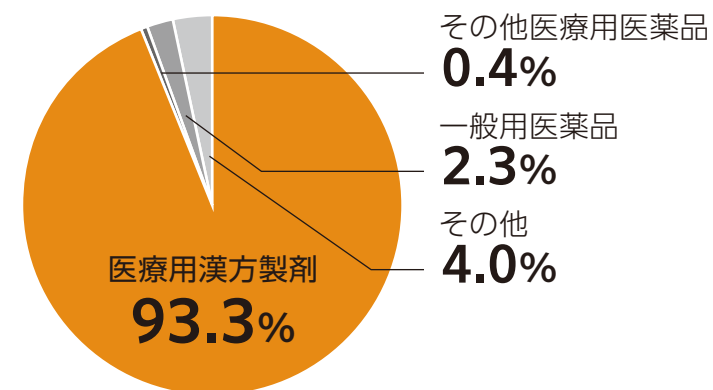
# 2014年3月期連結決算の概要

(百万円)

	計 画 (2014.2.7修正)	当 期	計画比		前期比	
			金 額	増減率	金 額	伸長率
売上高	109,000	<b>110,057</b>	1,057	1.0%	4,418	4.2%
営業利益	22,000	<b>22,461</b>	461	2.1%	▲663	▲2.9%
経常利益	23,400	<b>23,966</b>	566	2.4%	▲344	▲1.4%
当期純利益	17,700	<b>18,050</b>	350	2.0%	2,677	17.4%

	計 画 (2014.2.7修正)	当 期	前 期
営業利益率	20.2%	<b>20.4%</b>	21.9%
配当金 (1株当たり)	64円	<b>64円</b>	62円
EPS	—	<b>255.94円</b>	217.98円
ROE	—	<b>14.5%</b>	14.1%

## 売上高構成比



## 2014年3月期決算のポイント

原料生薬価格上昇等により増収減益（営業利益、経常利益）の決算となったが、修正計画値（2月7日公表）を上回る着地

売上高 **110,057**百万円 計画比 **+1.0%** 前年比 **+4.2%**

主力の医療用漢方製剤は、前期比32億円増（+3.2%）、計画比5億円増（+0.5%）

- ・ 病院市場（臨床研修指定病院・大学病院）における漢方勉強会、全診療科説明会を強化するとともに、病院診療科・医院における漢方説明会の実施先に対する訪問・面談・フォロー活動等にも重点を置いて進めた
- ・ 育薬5処方合計の売上伸長率：6.9% 育薬以外124処方合計の売上伸長率：1.9%

為替変動による連結決算上の内部取引差額の影響で、売上高が16.2億円増加

営業利益 **22,461**百万円 計画比 **+2.1%** 前年比 **▲2.9%**

営業利益率 **20.4%** 計画比 **+0.2pt** 前年比 **▲1.5pt**

- ・ 売上原価率は35.2%（計画値35.0%）生産量増加による効率化が原価率改善に寄与したが、原料生薬の価格上昇の影響等により前期比1.2ptアップ
- ・ 販管費率は44.3%（計画値44.8%）販売関連費用の増加、研究開発費（育薬・米国開発）の増加等により前期比0.2ptアップ

経常利益 **23,966**百万円 計画比 **+2.4%** 前年比 **▲1.4%**

- ・ 中国子会社への貸付金に伴う為替差益を営業外収益に計上

当期純利益 **18,050**百万円 計画比 **+2.0%** 前年比 **+17.4%**

- ・ 投資有価証券売却益44.1億円を特別利益に計上

# 医療用漢方製剤 売上高トップ10

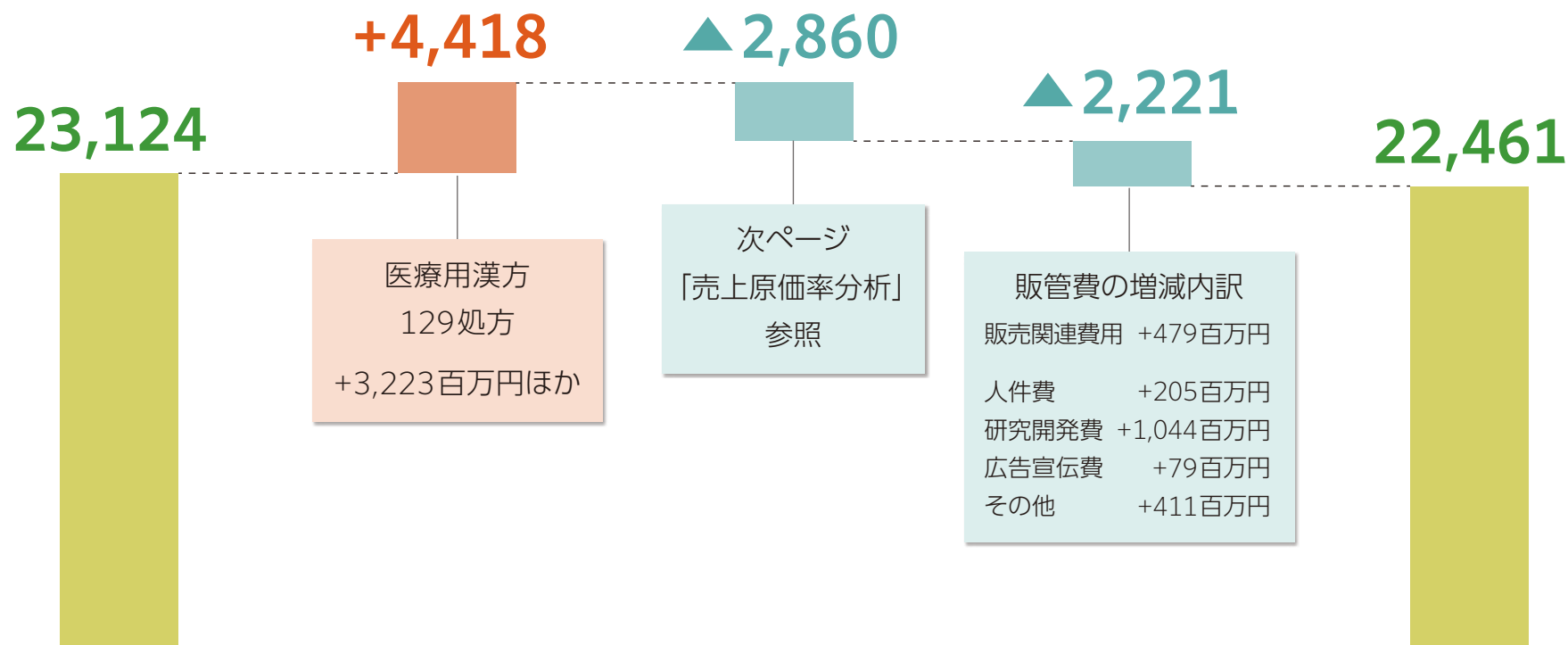
は育薬処方 (百万円)

順位	処方名	主な効能・効果	2013年度	2012年度	比較増減	
1	大建中湯	腹痛、腹部膨満感	9,785	9,094	691	7.6%
2	補中益気湯	病後の体力増強、食欲不振	6,883	6,567	316	4.8%
3	抑肝散	神経症、不眠症	6,628	6,041	586	9.7%
4	六君子湯	胃炎、消化不良、食欲不振	6,612	6,163	448	7.3%
5	加味逍遙散	冷え症、更年期障害、月経不順	4,264	4,102	161	3.9%
6	芍薬甘草湯	急激におこる筋肉のけいれんを伴う疼痛、 筋肉・関節痛、胃痛、腹痛	4,179	3,803	376	9.9%
7	麦門冬湯	咳、気管支炎、気管支喘息	3,996	3,879	117	3.0%
8	牛車腎気丸	腰痛、下肢痛、しびれ、排尿困難	3,812	3,783	29	0.8%
9	柴苓湯	むくみ(浮腫)、急性胃腸炎	3,343	3,358	▲14	▲0.4%
10	小青竜湯	気管支炎、気管支喘息、鼻炎、アレルギー 性鼻炎、アレルギー性結膜炎	2,717	2,949	▲231	▲7.9%
—	半夏瀉心湯	口内炎、神経性胃炎、醗酵性下痢	1,181	1,120	61	5.5%
医療用漢方製剤129処方計			102,680	99,457	3,223	3.2%
育薬5処方計			28,020	26,203	1,817	6.9%



# 営業利益の増減要因

(百万円)



**+4,418**

医療用漢方  
129処方  
+3,223百万円ほか

**▲2,860**

次ページ  
「売上原価率分析」  
参照

**▲2,221**

販管費の増減内訳

販売関連費用	+479百万円
人件費	+205百万円
研究開発費	+1,044百万円
広告宣伝費	+79百万円
その他	+411百万円

2012年度営業利益

売上高増加

売上原価増加

販管費増加

2013年度営業利益

## 売上原価率分析

計画 (2014年2月7日修正) 比 **35.0%** ▶ 2013年度 **35.2%** **ほぼ計画通り**  
2012年度 (前期) 比 **34.0%** ▶ 2013年度 **35.2%** **1.2pt増**

要因	影響度
生薬の価格上昇	1.1pt
生薬の為替影響	0.5pt
その他 (生産性向上等)	▲0.4pt
計	1.2pt

## たな卸資産の増加分析

(億円)

B/S	2012年度末	2013年度末	数量増による 影響	生薬単価による 影響	為替による影響 ・その他	前期差
たな卸資産	355	434	38	24	17	79
(製品)	68	88	15	6	▲1	20
(仕掛品)	83	105	16	8	▲2	22
(原材料)	203	240	7	10	20	37

# 戦略課題への取り組み・進捗状況

1.漢方市場の拡大

2.収益力の強化

3.財務・資本政策



# 臨床研修指定病院（含む大学病院）における漢方勉強会・全診療科説明会実施状況

## 臨床研修指定病院（含む大学病院）

### 1. 初期研修医向け漢方勉強会

研修医5名以上在籍施設における勉強会の開催

研修医5名以上在籍施設：約630

実績：**396**（約62%）実施

### 2. 臨床研修指定病院の「全診療科」における漢方説明会

漢方129処方の効能・効果により様々な領域へのアプローチが可能

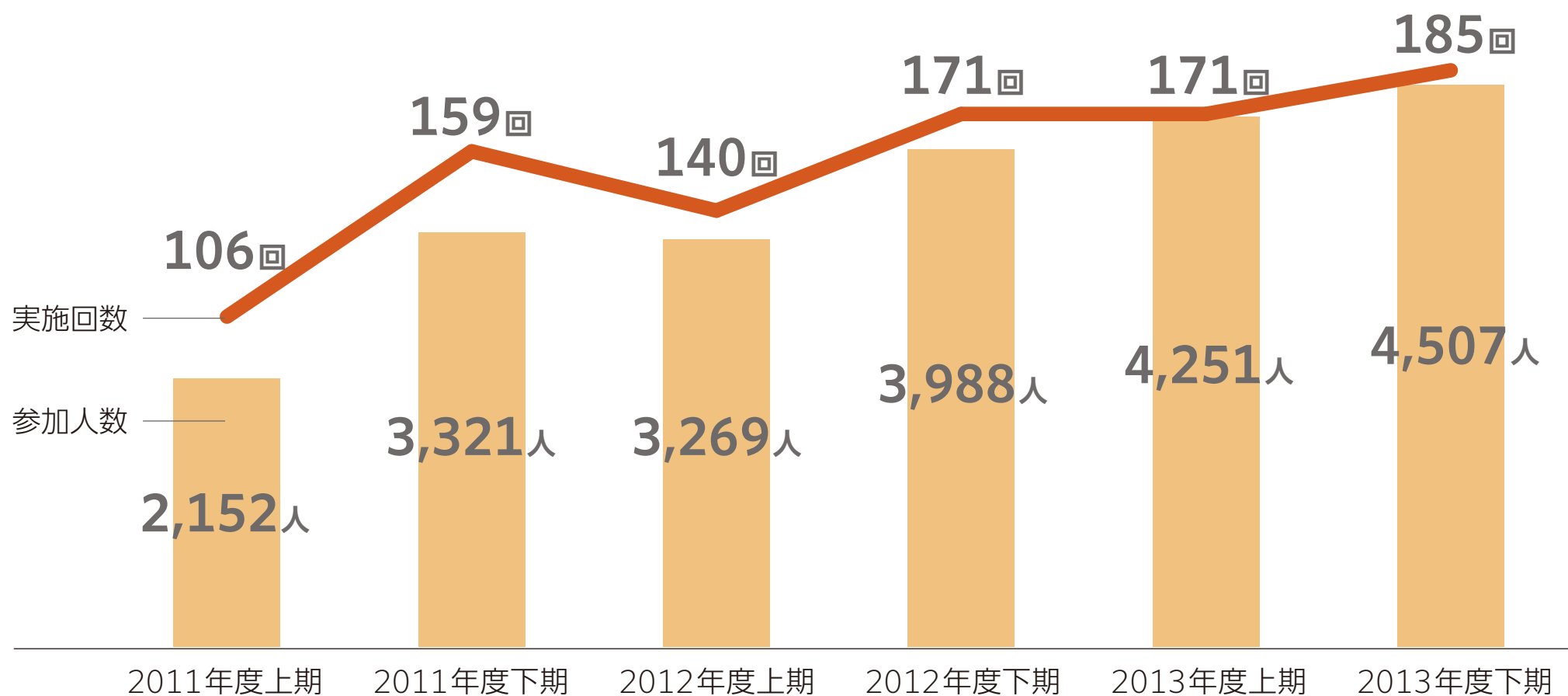
臨床研修指定病院：約1,000

診療科：約18,000

実績：**12,845**（約71%）実施

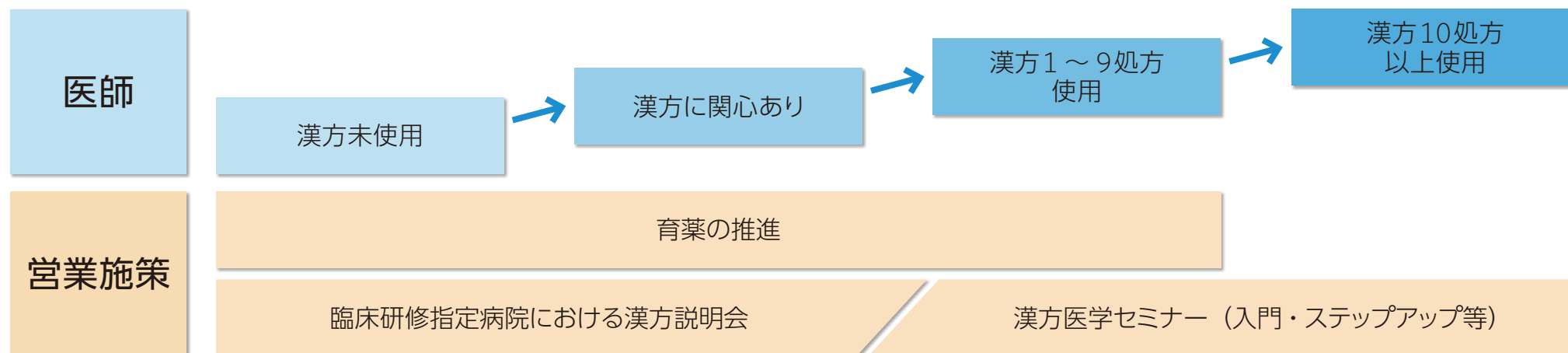
- ・ 医療機関からの実施ニーズが高く、当社にとっても新規処方医師の増加や処方医師の処方数増加等、将来の漢方市場拡大につながる重要な活動であるため継続して実施
- ・ 新規先のほか、実施先に対する訪問・面談・フォロー活動等を強化

# 漢方医学セミナー



# 主な営業施策とその効果・処方拡大イメージ

営業施策	結果分析
育薬の推進	育薬処方および育薬関連処方は順調に拡大
臨床研修指定病院における漢方説明会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2013年度は全診療科対象の説明会に注力した結果、処方化までに時間を要している施設もあるが、様々な領域において処方拡大に繋がる手応えあり</li> <li>・ 説明会の効果および効率性を見極めながら継続実施</li> <li>・ 実施先の訪問・面談・フォロー活動等を強化</li> </ul>
漢方医学セミナー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床研修指定病院における漢方説明会の効果もあり、病院医師の漢方医学セミナーへの参加者数は増加</li> <li>・ セミナー参加後、漢方製剤の使い分けにより、10処方以上を使用する医師の増加が見込まれる</li> </ul>





## 漢方のエビデンス状況 (DB-RCT &amp; 安全性)



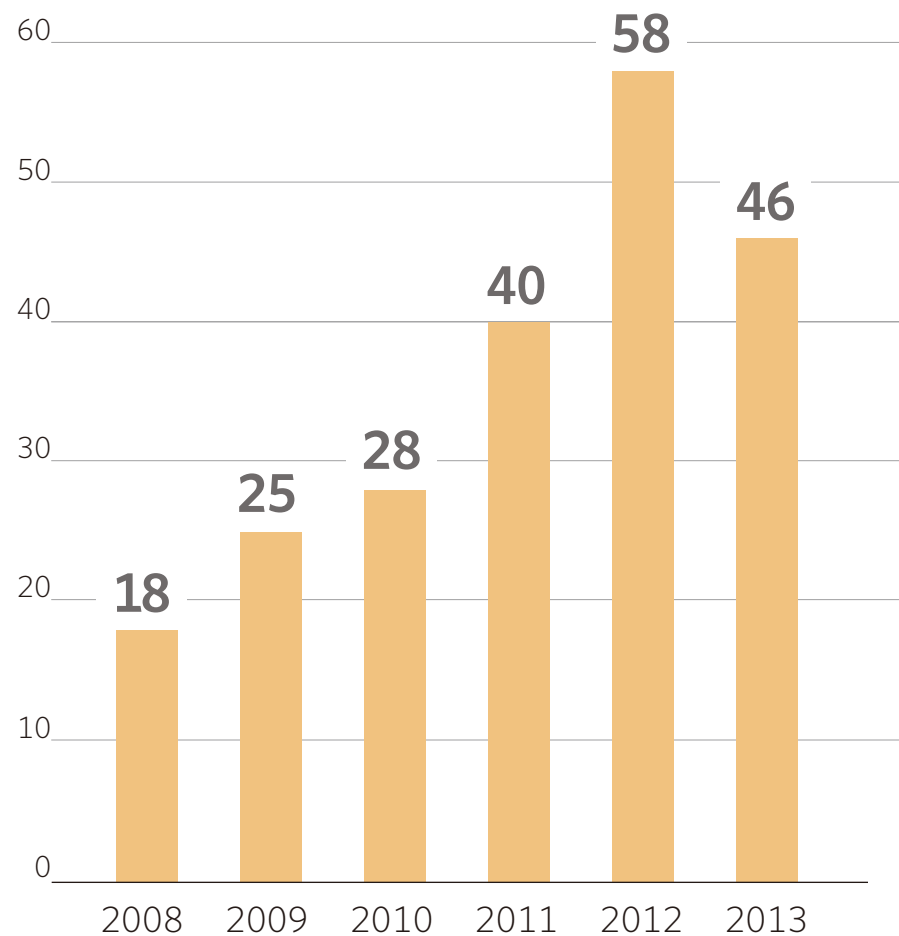
処方名	対象疾患	代表施設	試験集積期間	公表状況等
大建中湯	肝臓癌術後腸管麻痺	徳島大学 他30施設	試験終了	Int J Cli Oncology 掲載
	大腸癌術後消化管機能異常 (本試験)	北里大学 他64施設	試験終了	投稿中
	大腸癌術後消化管機能異常 (付随試験)	藤田保健衛生大学 他19施設	試験終了	投稿中
	胃癌術後消化管機能異常	大分大学 他43施設	試験終了	DDW*2014 採択・投稿中
	膵癌術後麻痺性イレウス; JAPAN-PD Study	和歌山県立医科大学 他10施設	解析中	
	緩解期クローン病	慶應義塾大学 他9施設	~ 2015.3	症例集積中
	肝移植後消化管機能異常; BKT-14 Study	京都大学 他14施設 (予定)	2014.6 ~ 2016.5	2014年6月開始予定
抑肝散	難治性統合失調症	島根大学 他33施設	試験終了	投稿中
	難治性統合失調症 (長期試験)	島根大学 他未定	2014.5 ~ 2016.4	2014年5月開始予定
	BPSD	東北大学 他21施設	試験終了	投稿中
六君子湯	難治性胃食道逆流症; G-PRIDE Study	大阪市立大学 他75施設	試験終了	J.Gastroentrology 掲載
	機能性胃腸症 (FD); DREAM Study	大阪市立大学 他未定	2014.4 ~ 2016.3	2014年4月症例集積開始
	機能性胃腸症 (FD); GER 臨床薬理試験	ルーベン大学	2014.10 ~ 2016.3	2014年10月開始予定
牛車腎気丸	FOLFOX 末梢神経障害; GONE Study	旭川医科大学 他16施設	試験終了	Cancer Chemother Pharmacol 掲載
	FOLFOX 末梢神経障害; GENIUS Study	九州大学 他43施設	試験中止 (2012年5月)	
半夏瀉心湯	大腸癌化学療法に伴う口内炎; HANGESHA-C Study	大阪医療センター 他18施設	試験終了	投稿中
	胃癌化学療法に伴う口内炎; HANGESHA-G Study	神奈川がんセンター 他14施設	試験終了	Cancer Chemother Pharmacol 掲載
抑肝散	副作用発現頻度調査	—	2012.10 ~ 2014.3	解析中
芍薬甘草湯	副作用発現頻度調査	—	2013.10 ~ 2014.9	調査中

\* Digestive Disease Week (米国消化器病週間)

# 漢方のエビデンス状況（英語論文：学会発表）

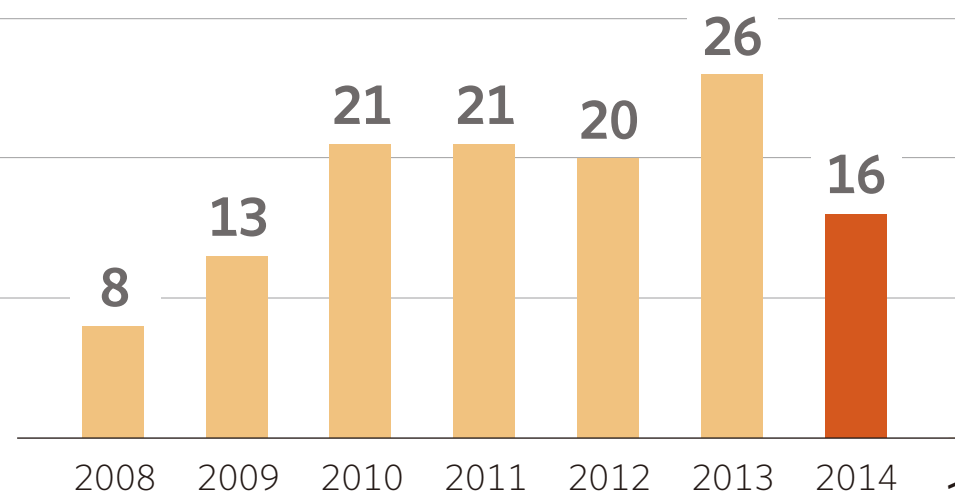
## 育薬処方を中心に海外でも注目される漢方研究

### 論文数推移



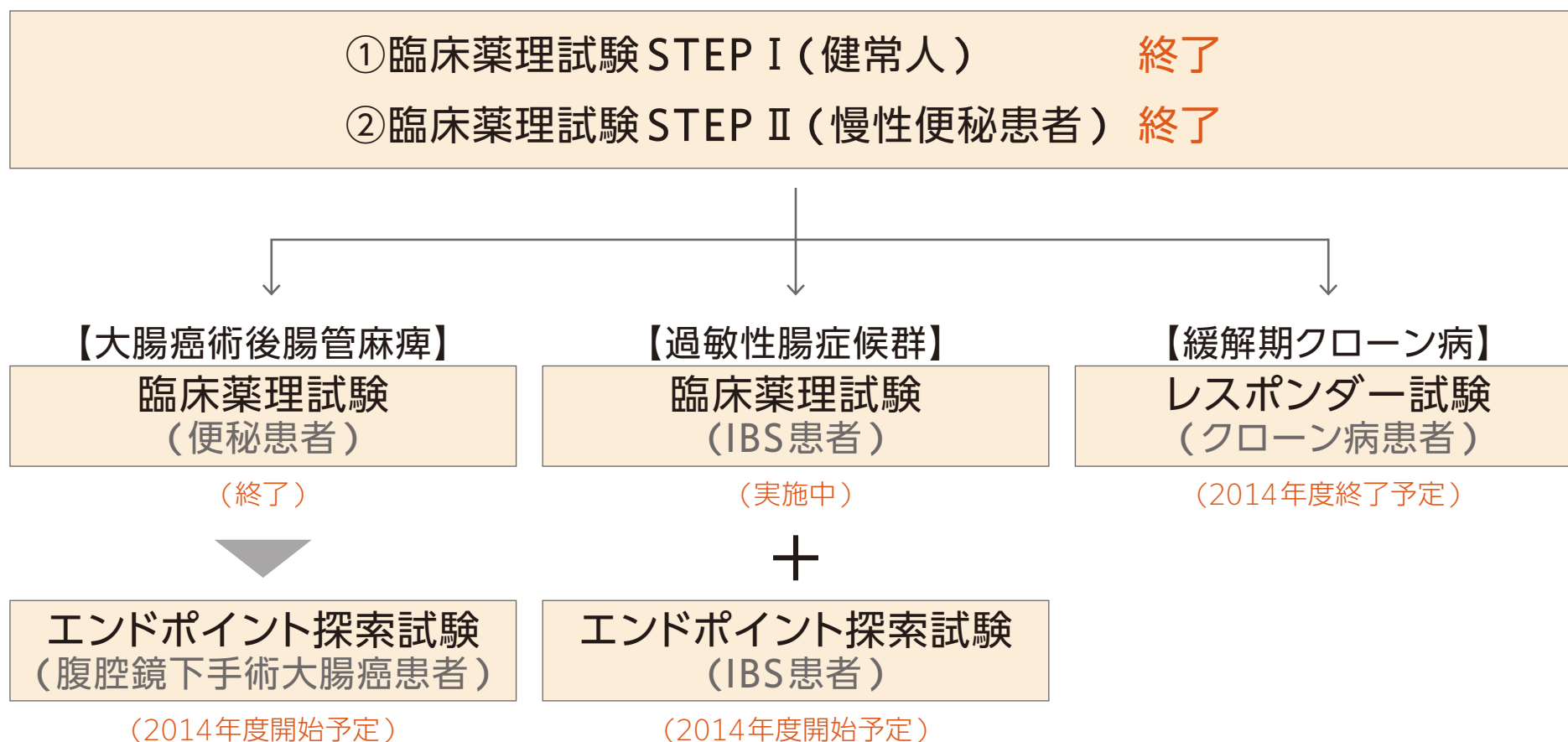
### 米国消化器病週間 (DDW) 漢方関連採択演題数推移

2014年DDW	
大建中湯：	2演題
六君子湯：	14演題



# TU-100 米国内臨床治験進捗状況

## Phase II (前期)



# TU-100 米国開発における必要要件への対応

植物薬の臨床試験にあたり克服すべき事項：**製剤ロット間の変動（バラツキ）**

## 必要要件

TU-100の安全性・有効性の証明

活性成分の製剤ロット間での均一性担保

2014年4月  
品質保証要件の明確化

治験や品質保証要件の対応状況等を  
ふまえて開発スケジュールを見直す

## ツムラ対応

副作用発現頻度調査  
薬物動態試験  
臨床薬理試験の実施

バイオアッセイ・HPLC-FPによる  
品質評価法の確立

- ・原料生薬データベースの構築
- ・農薬、重金属、微生物、アフラトキシン等の管理

植物薬  
品質管理の  
世界標準に

# 労働生産性を上げる仕組みづくり

## ～ エキス粉末から顆粒・製品の製造にわたる生産能力の増強～

既設生産基礎能力の向上	改善活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全工程において改善活動を継続実施</li> </ul>
	稼働体制の変更	<ul style="list-style-type: none"> <li>・造粒工程は、2013年度より連続24時間稼働継続。 2014年度10ライン中6ライン</li> <li>・包装工程は、2012年度より連続24時間稼働継続。 2014年度20ライン中12ライン</li> </ul>
新生産技術の検討と導入	省人化、省力化に対応した製造システムの構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新エキス粉末製造システム → 2018年度稼働予定 [茨城工場]</li> <li>・新造粒システム → 2013年度稼働 [茨城工場]</li> <li>→ 2016年度稼働予定 [静岡工場]</li> <li>・新包装システム → 2016年度稼働予定 [静岡工場]</li> <li>・ロボット技術の更なる活用 等</li> </ul>

労働生産性 (対2011年度比) 2012年度は**3.6%**アップ  
2013年度は**7.6%**アップ (計画は8.9%アップ)

2013年度は4Qに販売計画を修正したこと  
に伴い、生産計画を減産調整した  
これらを考慮した労働生産性向上の実績は  
計画通り

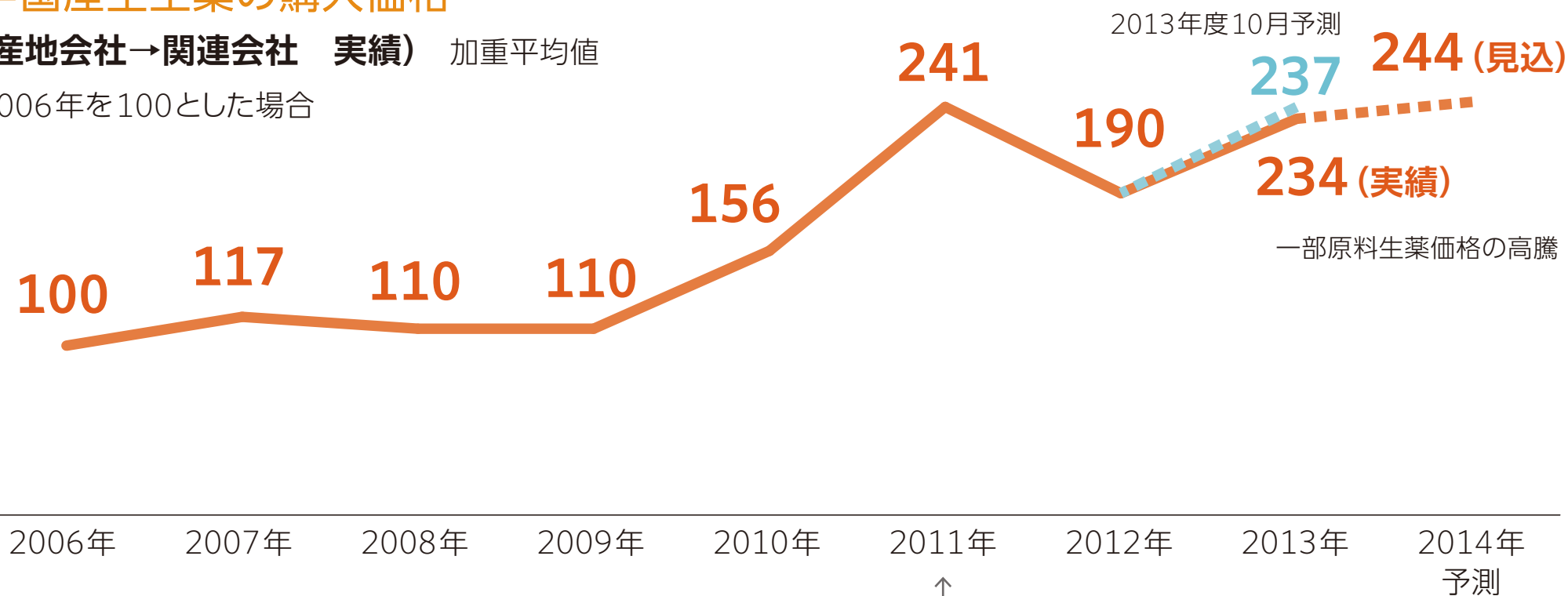
既設生産基礎能力の向上および新生産技術の検討と導入により、  
「コスト構造改革」を進め、将来の製造原価率低減に資する基盤づくりを推進する

# 生薬価格の推移

## 中国産全生薬の購入価格

(産地会社→関連会社 実績) 加重平均値

2006年を100とした場合



一部原料生薬価格の高騰

- ①中国国内での生薬需要増、
- ②天候不順、③投機的買占め

## 生薬価格安定化に向けた対応【自社管理圃場】

### 「自社管理圃場」とは

『一定規模の栽培面積を有し、当社の直接的な栽培指導ができ、栽培にかかるコストの把握とそれに基づく生薬の購入価格設定が可能な圃場』

#### 具体例

- ① 当社および当社関連会社が保有（借用）する農地で、自ら栽培する圃場（夕張ツムラ、ラオツムラ）
- ② 生産団体（日本）または産地会社（中国）が保有する農地で、当社の指導に基づき栽培し、栽培コストに基づく買取価格を設定できる圃場

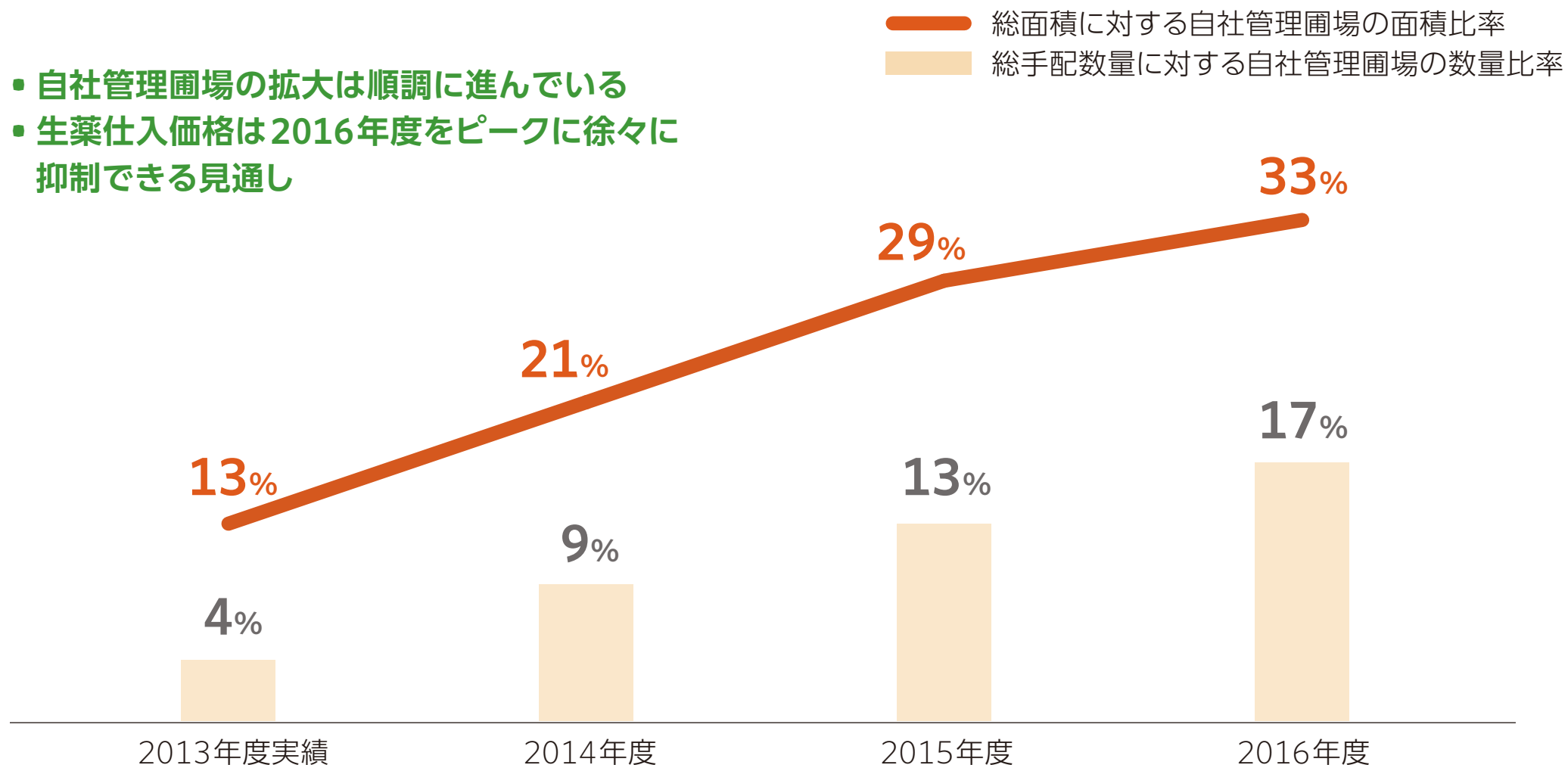
### 「自社管理圃場」拡大の効果

#### 期待される効果

- ① 投機などによる市場価格の影響を受けない
- ② 大規模化・機械化による生産効率の向上により、コストダウンが図れる
- ③ 最新栽培技術の導入により、単位面積あたりの収量増が図れる

# 自社管理圃場計画（2014年～2016年）

- 自社管理圃場の拡大は順調に進んでいる
- 生薬仕入価格は2016年度をピークに徐々に抑制できる見通し





# 設備投資計画

## 持続的成長の実現に向けた設備投資

		第1期中期経営計画				第2期	
		投資案件	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度以降
生産 関連	静岡工場	新造粒包装棟など				☆	-----→ ☆
		新生薬倉庫		5月			
		S Dライン関連					☆
	茨城工場	新造粒棟		1月			
		新規製造棟など					☆
STP (上海)	S D棟		10月				
生産その他	開発・維持・更新など						
生薬 関連	石岡	石岡センター再構築		1月			
	STM (深圳)	倉庫	3月				
	夕張	夕張ツムラ 建屋				☆	
	生薬その他						

☆稼働予定時期

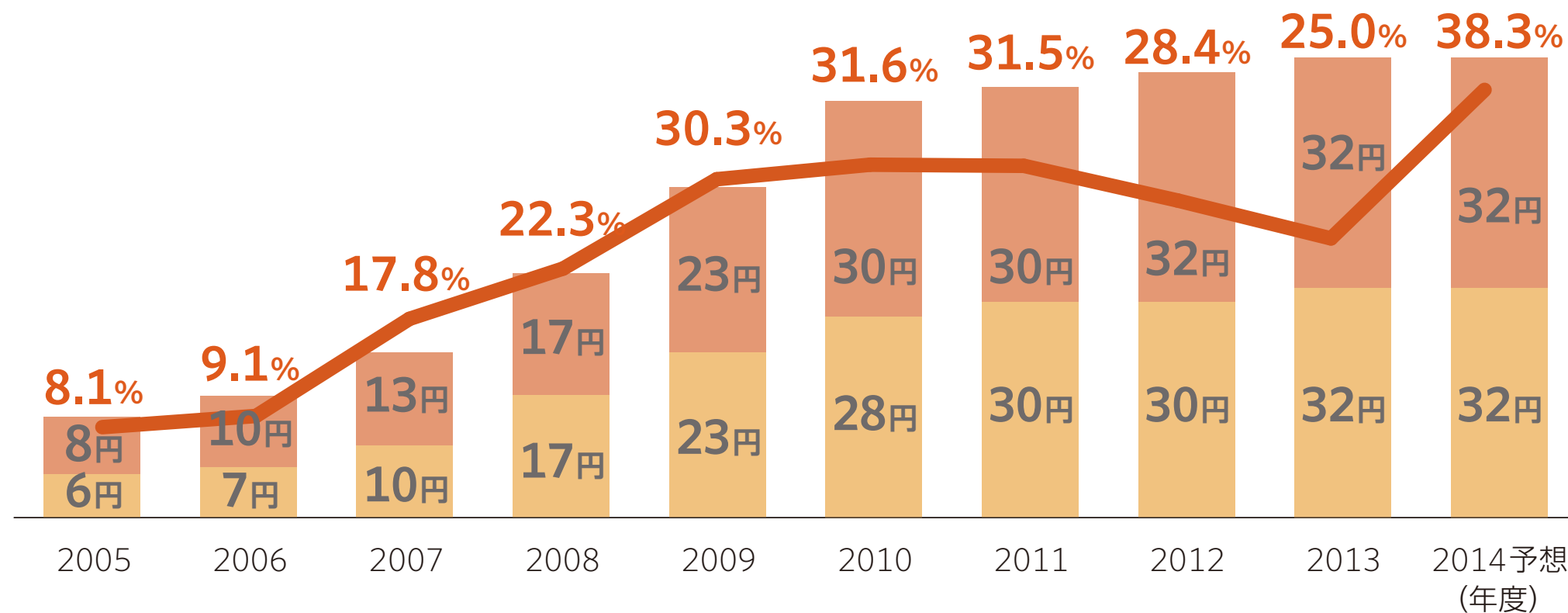
設備投資額： 2012年度95億円 2013年度92億円


- ・設備投資は、販売動向をふまえ生産設備の稼働時期等を見直した結果、2014年と2015年の2年間で約260億円を予定
- ・資金需要に応じた、金融機関からの長期借入金を検討

## 株主還元

## 配当方針

- “漢方”が持続的に発展・成長するための事業投資を通じた企業価値向上
- 中長期の利益水準やキャッシュ・フロー等の状況を勘案し、安定配当を実施





# 2015年3月期業績予想

## 2015年3月期 業績予想

(百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	比較増減	
売上高	110,057	<b>111,400</b>	1,342	1.2%
営業利益	22,461	<b>18,200</b>	▲4,261	▲19.0%
経常利益	23,966	<b>18,400</b>	▲5,566	▲23.2%
当期純利益	18,050	<b>11,800</b>	▲6,250	▲34.6%

	2014年3月期	2015年3月期
営業利益率	20.4%	<b>16.3%</b>
配当金 (1株当たり)	64円	<b>64円</b>
EPS	255.94円	<b>167.32円</b>
ROE	14.5%	<b>8.8%</b>

- 売上高……………医療用漢方製剤の数量ベースの伸長傾向や薬価改定を考慮
- 営業利益……………薬価改定、一部の原料生薬の価格上昇及び為替の影響等を考慮
- 配当金……………1株あたり配当金額は中間32円、期末32円(年間64円)と予想

本資料に関するお問い合わせ先

---

株式会社ツムラ  
コーポレート・コミュニケーション室  
IR推進グループ  
TEL : 03-6361-7101

#### 見通しに関する注意事項

- 本資料中の目標数値はあくまで目指す方向性等を示すものであり、正式な業績予想ではありません。正式な業績予想は東京証券取引所規則に基づく年次決算短信での開示をご参照ください。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 現在発売している主要製品が、万が一製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。